

I 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	1 豊かな心の育成 ①いじめ、不登校への適切な対応（必須） ②明るく丁寧な挨拶・返事	3	○ いじめの早期発見に向けて生活アンケートや個人面談を行い、状況把握に努めた。また、定期的に児童理解の時間を設定し、全職員で情報共有を行い、対応について確認を行った。不登校傾向のある児童については、保護者や相談員、スクールカウンセラーだけでなく、町教委や町こども政策課、適応指導教室「いぶき」等とも連携し、共通理解のもと対応することで改善に努めた。 ○ 本年度も明るく丁寧な挨拶を目指し、挨拶運動が充実するよう努めた。育友会の活動でも、登校児の立哨および挨拶運動を行った。今後も全職員が率先垂範して挨拶を行い、浸透を図っていく。言葉遣いについては、人権週間で友達を思いやる「ふわふわ言葉」の推奨をした。また、全学級で言語環境を整えることを徹底し、日常の言葉遣いの適正化を図った。今後は、家庭や地域との連携をさらに進め、挨拶や言葉遣いの更なる向上を推進していく。
	2 基礎学力の充実 ①学習規律の徹底 ②家庭学習の習慣化	3	○ 校内研修を活用して、学習規律チェックシートを用いた学習規律の徹底に向けて全職員で共通理解のもと取り組んだ。話の聞き方や学習の仕方、学用品の準備などを意識して取り組む児童が増えてきている。 ○ 家庭学習については、内容を学年で統一し、習慣化に努めた。家庭へは学級懇談会や通信等で呼びかけ、協力を促した。また、取組が難しい児童については、家庭学習の量や内容を、保護者と連携しながら、個別に対応することで少しずつ習慣化が見られるようになった。今後も、家庭との連携を大切に進めていく。読書については、貸出目標冊数の達成に向けて、委員会活動を活用して読書活動が活発になるよう促した。また、長与読み聞かせの会や育友会教養部、教職員による読み聞かせを行い、読書への興味や関心の高まりにつなげることができた。
	3 健康安全教育の推進 ①体力・心の回復力向上 ②熱中症予防対策、安全教育の推進	3	○ 体育主任を中心に、北小ファイトや体育科の授業で内容を工夫し、体力向上に向けて取り組んだ。体力テストで課題となった柔軟性について、体育委員会を中心に柔軟性向上キャンペーンを企画したところ、ほとんどの児童が参加し、柔軟性向上に励む姿が多く見られた。また、持久走記録会では自分の目標や体力に応じて完走することができた。また、学級活動や道徳授業において自他ともに大切にすることを育んだ。今後も体力・心の回復力向上のために、様々な活動を工夫し取り組んでいく。 ○ 春から秋にかけて、高温晴天時の熱中症予防について、養護教諭を中心に放送や掲示物などで児童へ注意喚起を促し、予防に努めた。災害等に備え、各学級で安全教育

			を実施し、年間複数回の避難訓練を実施した。今後も児童の安心安全を守るために、対策の継続と徹底を図っていく。
4 特別支援教育の充実 ①一人ひとりのニーズに応じた支援（必須） ②自己有用感を高める指導	3	○ 特別支援コーディネーターを中心に、ケース会議を開いたり児童理解の時間を設定したりして、全職員が児童の実態把握に努め、組織的対応を行った。保護者や病院などの他機関とも連携することで、個に応じた支援を行い、児童の成長にもつながった。個別の対応が必要な児童に対しては、全職員で連携して対応することができた。今後も、他機関とのつながりを大切にし、組織的に対応していく。 ○ 係活動や縦割り活動、委員会活動、クラブ活動などで、児童が互いに協力し合い認め合うことができる活動を設定し、児童の頑張りを認め適切に評価することをとおして、児童の自己有用感を高めるよう努めた。今後も一人一人をしっかりと見つめ、自己有用感が高まる指導の継続を行っていく。	
5 国際化への対応 ①外国語教育の充実	3	○ 昨年度に引き続き、5・6年生の外国語の授業を週2時間、外国語専科とALTが行ったことで、充実した学習につながり、楽しみながらコミュニケーション力を高めることができた。電子黒板やデジタル教科書、タブレット端末の活用も進められた。1～4年生は外国語担当や担任とALTが連携して授業を行い、外国語に対する興味や関心を高めることができた。放送委員会が毎日、外国語の挨拶を放送したり、校舎内の階段に英単語を掲示したりと、外国語に触れる機会を設けている。	
6 教育環境の整備 ①整理整頓、掃除の徹底 ②校舎内外の環境美化	3	○ 掃除時間では、まず全員で黙想を行い、気持ちを落ち着かせてから「もくもく掃除」を行っている。また掃除時間だけでなく、日頃から整理整頓を心がけるよう指導を行い、自分たちが使っている学校を自分たちできれいにする心を育むことに努めた。 ○ 校舎は傷みや劣化の目立つ箇所が増えているが、その都度適切に修繕し、教育環境の整備や美化に努めている。今後も児童や教職員が安心して学校生活を送ることができるよう引き続き教育環境の整備に努めていく。	
7 教職員の資質向上 ① 指導力の向上（必須） ② 組織としての指導	3	○ 校内研修では、全担任が研究授業を行い、指導力向上に努めた。また、メンター研修を生かして若手職員を中心に互いの授業を見合うなど、指導力向上に向けて職員が積極的に学ぶ姿勢が見られた。 ○ 学校教育目標を基軸として全職員による「力の向上」という共通目標のもと、児童の指導に当たった。特に、なかなか学習に向かうことができず、学級に居場所を見出しにくい児童に対して、担任を中心に全職員で指導に当たることで、改善につなげることができた。また、校務分掌を複数体制で行ったり、各専門部で話し合いを重ねたりしたことで職員間の協働性や同僚性が高まった。今後も組織として共通理解のもと、児童へ指導していく。	

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

（1）成果

- ①不登校傾向児童や支援が必要な児童への組織的な対応による個別支援の実施。
- ②北小ファイトを中心に取組んだ体力向上の取組。
- ③校内研究を活用した学習規律の徹底および家庭との連携を図った家庭学習の実施。

（2）課題等

- ①学級規律に適応しにくい児童への組織的な対応。
- ②ながよ検定や学力検査（C R T）の結果分析を生かした学力向上への取組の充実。
- ③家庭や地域での挨拶運動の推進。

3 学校関係者評価

3 学校関係者評価

- ・来年度の地域人材の活用をどのように進めていくか、CSの役割を改めて考えなければならない。
- ・自律力の向上と、子供が自分勝手にすることとの違いを考えた指導をすすめてほしい。
- ・目標とする姿に近づけるよう、応援、手伝いをしていきたい。
- ・評価者が児童とふれ合うことをより増やした上で、評価する必要がある。

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- ・地域人材の活用を見据えたカリキュラムマネジメントを進め、地域に開いた教育課程の実現を模索していく。
- ・学校における児童の望ましくない言動について、保護者と現状を共有した上で、より良い姿を目指して学校と家庭が連携してして指導をする体制を作る。
- ・学校関係者が学校での教育活動を見ることのできる機会を増やすことを検討する。

5 その他

5 その他（特になければ記入不要）

【留意点】

評価は、自己評価をもとに学校関係者評価にも十分配慮し、総合的に判断し記入する。
評価は4段階とし、以下による。

4 十分達成できている

2 どちらかというと達成できていない

3 概ね達成できている

4 ほとんど達成できていない